

スポーツの秋・文化の秋 真っ盛り。

文責 学校長



～新人戦の応援・総文祭の見学に出かけよう～

1 杵藤地区新人卓球大会で優勝、英語スピーチコンテストで第2位に輝きました。

10月9日(日)に行われた「杵藤地区新人卓球大会」において、女子団体で優勝、女子シングルスで福田優さん(2-1)が優勝しました。また、9月18日(日)に行われた「佐賀県英語スピーチコンテスト」において川崎日菜子さん(2-4)が第2位に輝きました。

2 佐賀県高校総文祭壮行式を行いました。

10月14日(金)に「佐賀県高等学校総合文化祭」に出場する文化部の壮行式を行いました。校長、生徒会副会長の激励に続いて各部の部長から県総文祭や全九州総文祭に向けての意気込みが語られました。各専門部の開催日時・場所等は高文連のHPでご確認ください。全九州総文祭は佐賀で開催されます。



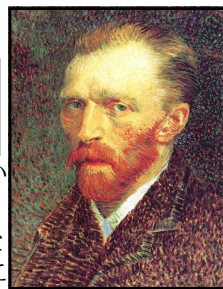
3 「医”志”を知るセミナー」を開催しました。

10月14日(金)の定期考査の午後、1・2年の医療系大学等への進学希望者を対象に「医”志”を知るセミナー」を開催しました。このセミナーは佐賀県医務課医療人材政策室の企画によるプログラムで、医師不足が懸念される将来を見越して地域医療を支える人材を育成する目的で企画されました。講師は、嬉野医療センターや唐津赤十字病院、佐賀大学医学部附属病院に勤務する先生方で、自治医科大学や佐賀大学医学部の紹介や学生生活、医師を志すに至った経緯、医師に必要な能力や適性などについてそれぞれご自身の生い立ち等も交えながら講演していただきました。生徒たちは「医」への「志」を新たに再確認し、モチベーションも高まったようです。



4 今週の名言・・・ヴィンセント・ファン・ゴッホの言葉です。

何も後悔することがなければ、人生はとても空虚なものになるだろう。  
美しい景色を探すな。景色の中に美しいものを見つけるんだ。



【解説】「ひまわり」の絵で有名な画家ゴッホの言葉です。ゴッホは37歳の時に拳銃自殺をした。といわれています。また精神病の他にも様々な病気を患い、病院を行き来していたというエピソードから、ネガティブで暗い印象を感じてしまいがちですが、彼が残したこの言葉には、失敗すらも人生の糧と捉え、楽しみ、挑戦し続ける人格が垣間見えます。実際に彼は多くの挫折を経験し、生きている時にほとんど社会的な評価を得られない立場でありながらも、10年で2000点以上の作品を残し続けました。そんなゴッホの心はとても前向きで、ポジティブであったと思われまます。失敗や、後悔なくしては人生は深まっていかない。「失敗は成功のもと」という諺にもあるようにそのようなマイナスな要素から、人間は多くのことを学んでいけるんだと思います。絶望的な状況で人生を後悔したとしても、それが未来への糧となると考えたら、少し明るくなれる気がします。多くの失敗をし、生前には評価を受けずとも歴史に残る偉大な作品を残したゴッホの言葉からそのことを学びたいですね。ちなみに現存する6点の内の1点のひまわりは58億円の値がつけました。(参考:「ことばをまなぶ」より)

【ヴィンセント・ファン・ゴッホについて】オランダのポスト印象派の画家。主要作品の多くは1886年以降のフランス居住時代、特にアルル時代(1888年-1889年5月)とサン=レミでの療養時代(1889年5月-1890年5月)に制作された。感情の率直な表現、大胆な色使いで知られ、ポスト印象派を代表する画家である。フォーヴィスムやドイツ表現主義など、20世紀の美術にも大きな影響を及ぼした。(参考:「Wikipedia」より)

5 今週の話成語・・・「人生は白駒の隙を過ぐるがごとし」【問題】英語で表現すると?

白い馬が走り過ぎるのを壁のすきまからちらっと見るように、月日の経過するのはまことに早いことをいう。(出典:『莊子』より)

【由来】月日の過ぎるのが、きわめて早いことのたとえ。「白駒」は白い馬、「隙」は壁のすき間の意。人の一生は、白い馬が走り過ぎるのを壁のすき間からちらっと見るようなものだという意から。この一文は『莊子』(知北遊篇)の次の文章が出典になっています。「人生天地之間、若白駒之過郛、忽然而已。」人生の短いことを語った言葉です。その訳は「人が天地の間に生きているのは、丁度白馬が走り去るのを戸の隙間からのぞき見るようなもので、ほんの一瞬のことに過ぎない。」です。

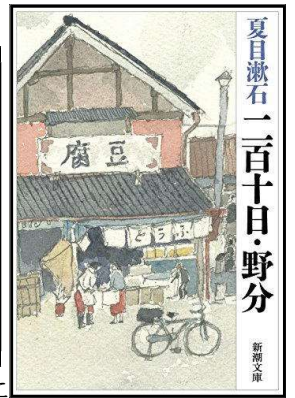


6 入試によく出る漢字(その52)・・・共通一次(1988度本・追試験)に挑戦!

- 【本試験】(1) 十四五本の強健ガン [ジョウ] な植物の群立が ..... [上・丈・情・状・場]  
 (2) 誓子説の [エン] チョウの上に述べられたもので、..... [延・円・縁・演・浴]  
 (3) 「十四五本」と「七八本」との [ユウ] レツ論は..... [由・有・優・憂・勇]  
 (4) よほど [ゴ] カンのにぶい者でないかぎり、..... [後・誤・護・語・互]  
 (5) 動かぬゆえんをナツ [トク] することである..... [特・督・徳・篤・得]
- 【追試験】(1) それに附帯し、それからハ [セイ] する現象である..... [生・整・性・請・製]  
 (2) それはすでに過去の [リョウ] ブンに属してしまう..... [了・量・領・料・両]  
 (3) 絶えずツイ [セキ] をつづける歴史家の筆によるのが..... [席・籍・斥・跡・惜]  
 (4) 資料と称する断片を [ソウ] サク、採集し、..... [創・搜・遭・想・総]  
 (5) そこにはたらくシュ [イン] がかれらのモラルである以上、..... [院・印・引・因・員]

## 7 今週の一冊・・・夏目漱石『二百十日』（新潮文庫）です。

阿蘇山に登る、2人の青年、圭さんと碌さんの2人の会話体で終始する小説である。語られるのはビールや半熟卵を知らない宿の女とのやり取りや、道すがらの鍛冶屋の様子などの瑣末な話題の中に、チャールズ・ディケンズの『二都物語』などに唐突に言及しながら、華族や金持ちに対する圭さんの慷慨が語られる。2人は阿蘇の各地を巡ったあと、いよいよ阿蘇山に登ろうとするが、二百十日の嵐に出くわし道に迷い、目的を果たせぬまま宿場に舞い戻ってしまった。翌朝2人は、いつか華族や金持ちを打ち倒すことと、阿蘇山への再挑戦を誓うのだった。漱石の小説としてはあまり論じられることのない小品である。（参考：本書裏表紙説明より）

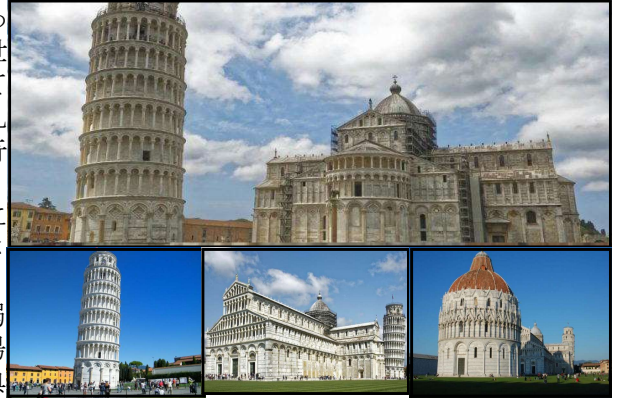


【解説】「二百十日」とは、立春(2月4日頃)から数えて210日目の日で、毎年9月1日頃にあたります。この頃は稲が開花する重要な時期ですが、農作物に甚大な影響を与える台風に見舞われることも多い日として昔から**油断してはいけない厄日**とされていました。作者・夏目漱石は、熊本での教師時代に、友人で同僚の山川信次郎とともに阿蘇に登山した経験があります。1899年8月29日から9月2日にかけて阿蘇各地をめぐり、その中で9月1日には登頂を試みましたが、嵐に遭い断念しています。本作品『二百十日』はこの体験に取材しており、作中の圭さんは漱石自身がモデルであるとされています。小説に登場する寺のモデルとされる阿蘇市小里の明行寺には、『二百十日』の文学碑が建っており、漱石が通った登山道には、「小説二百十日道跡案内」や『二百十日』文学碑などが建っています。漱石が宿泊した阿蘇市内牧の養神亭（現在のホテル山王閣）跡には、『二百十日』文学碑のほか、漱石像や、漱石が泊まった部屋を移築保存した**夏目漱石記念館**が建っています。毎年二百十日には**漱石祭**が開かれています。隣県熊本には漱石ゆかりの地が数多くあります。コロナが落ち着いたら是非巡ってみたいですね。

【作者・夏目漱石について】前号(第26号)を参照。

## 8 世界遺産を巡る・・・第77回はピサのドゥオモ広場(イタリア) (登録：1987年)

【解説】「ピサの斜塔」で有名なピサのドゥオモ広場は、イタリアにある世界遺産です。紀元前からローマ帝国の軍港だったピサは、11世紀半ばに西地中海の覇権を握り、13世紀末まで海運都市国家として栄えました。ピサの斜塔として知られる鐘楼、**大聖堂(ドゥオモ)**、洗礼堂、墓所(カンポサント)の四大建築が均衡を保つ**ドゥオモ広場**は奇跡の広場と呼ばれています。ピサ大聖堂の東側に建つ『ピサの斜塔』は本来は大聖堂に付随して建てられた鐘楼で、西側の礼拝堂とともに壮麗な大聖堂建築を形成する縦横な要素です。当初ピサの斜塔の高さは100m以上になる計画でしたが、3層まで工事が進んだ1185年から南に傾きはじめ、工事は中断されてしまいました。地盤が軟弱で、塔の重さで傾きはじめたとされています。ピサのドゥオモ広場にある大聖堂は、南ヨーロッパを中心に発達したロマネスク建築の典型で、十字に交差する建築の中央に円蓋を載せた外観や、太い列柱が半円アーチを描く正面の装飾は、後年、トスカナ地方の聖堂建築のモデルとなりました。内部の円柱の多くはイスラム教徒から略奪したもので、内部装飾にはイスラム様式のアーチやビザンティン風のモザイク画など、東方文化の影響を見ることができます。大聖堂の西側に建つ白大理石の洗礼堂は、1153年から200年以上かけて建てられました。そのため、上層と下層で建築様式が異なります。上層は、柱とアーチの連なりが高さを強調するゴシック様式で、下層は、大きな半円形のアーチが安定感を醸し出すロマネスク様式です。（参考：「世界遺産人気ランキング」より）



## 9 街角グルメを訪ねて・・・第77回は佐賀市の「長太呂 天祐店」です。

本店は大和町にある約50年続く地元で親しまれているそば屋です。天祐店は佐賀北高校の近くにあり、地元の人に親しまれているそば・うどん店です。9月16日(金)に県庁で開催された県知事への「全国総体上位入賞者報告会」の帰りに梶原先生と寺川君と3人で立ち寄ったお店です。30年ほど前に佐賀市内に住んでいた頃に何度か寄ったことのあるお店で、久しぶりに訪れ、変わらない味に昔を思い出しました。以前立ち寄っていた時は決まって「すき焼き鍋うどん」を注文していました。ボリュームもたっぷり、昆布とさばを使用したダシは独特の旨味が出て、万人受けするそば・うどんの名店です。値段もリーズナブルで庶民的な名店といえるでしょう。この日は「鴨南蛮そば」(600円)、「すき焼き鍋そば」(790円)、「ざるそばとカツ丼のセット」(960円)をそれぞれ注文。いずれもボリュームたっぷり、美味しくいただきました。住所は佐賀市天祐1-6-27です。



## 10 保護者の皆様へ・・・今週金曜日(10/21)に2年保護者会を開催します。

10月21日(金)の19時15分から本校・南体育館で2年生の保護者会を開催いたします。修学旅行や来年度のクラス編成についての大事な説明がありますので、ご参加の程よろしくお願いたします。

【英語】◇ time flies like watching a white horse run by through a gap in the wall

【正解】【本試験】(1) 頑丈 (2) 延長 (3) 優劣 (4) 語感 (5) 納得

【追試験】(1) 派生 (2) 領分 (3) 追跡 (4) 搜索 (5) 主因